

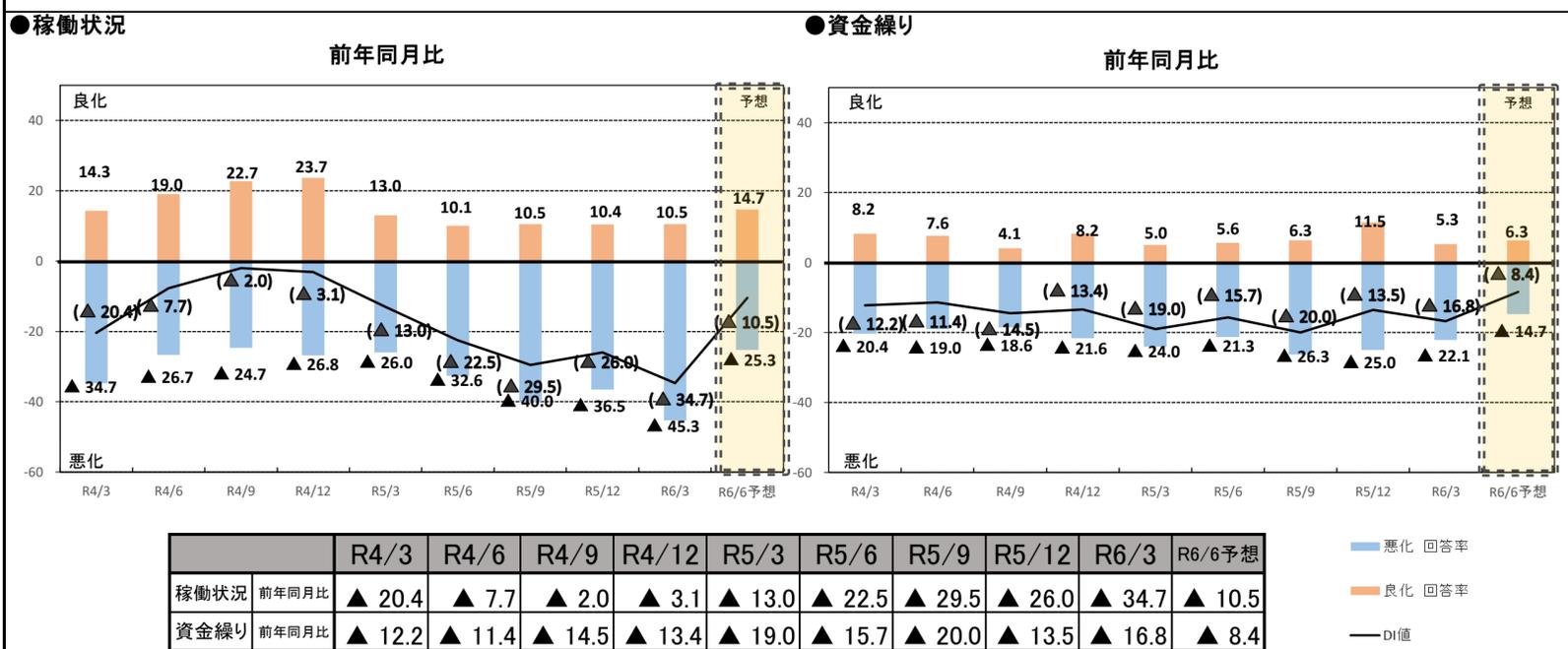
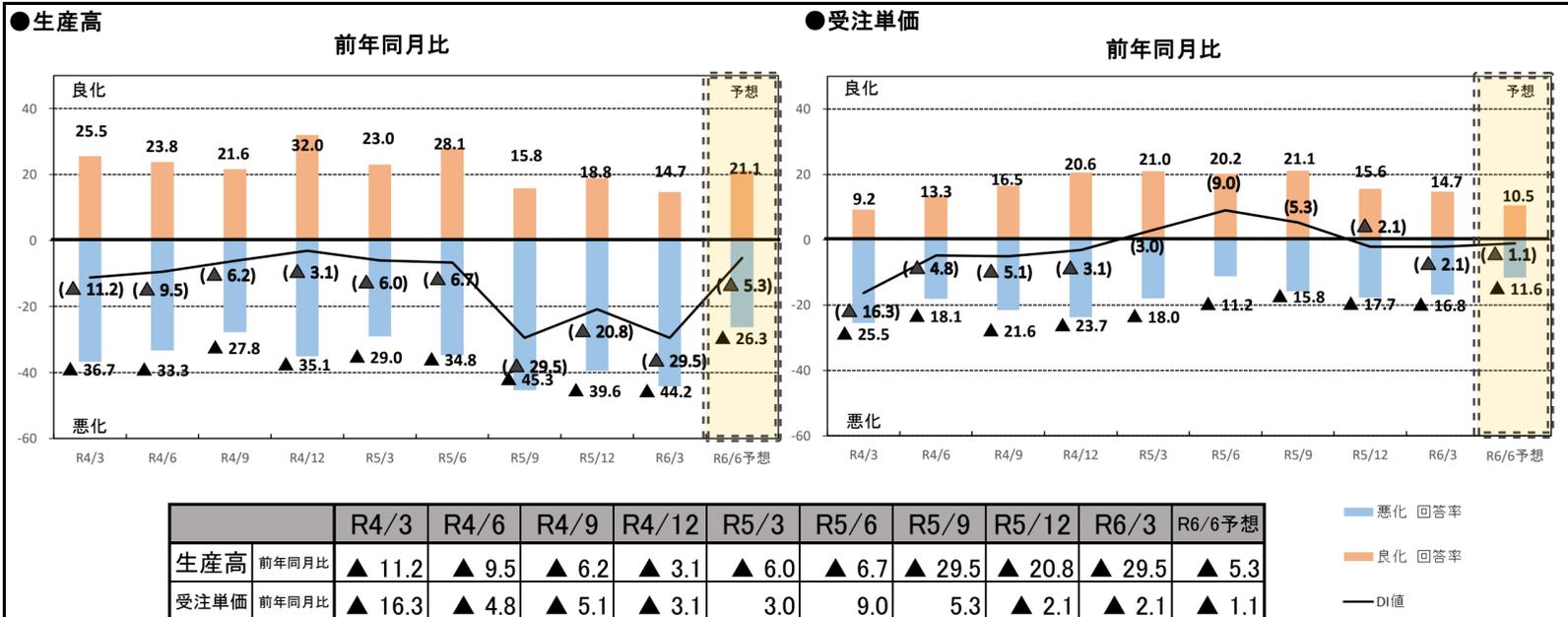
# 受注企業動向調査結果

-2024.3-

- 調査時点 令和6年3月調査(令和6年3月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 95社(回答率:63.33%)

＜業種内訳＞	
プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	18社
一般機械器具	21社
電気機器	18社
輸送用機器	6社
精密機器	11社
縫製	7社
計	95社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



- 概要(総合)
  - ・生産高(前年同月比)DIは▲29.5で前回の▲20.8から8.7ポイント減となった。
  - ・受注単価(前年同月比)DIは▲2.1で前回の▲2.1から横ばいとなった。
  - ・稼働状況(前年同月比)DIは▲34.7で前回の▲26.0から8.7ポイント減となった。
  - ・資金繰り(前年同月比)DIは▲16.8で前回の▲13.5から3.3ポイント減となった。
  - ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲5.3、受注単価は▲1.1、稼働状況が▲10.5、資金繰りは▲8.4という予想になった。
  - ・その他自由意見として、
    - ・大企業の賃上げに対して、中小企業がどの程度まで対応できるか疑問である。仕入単価の値上がりや人材確保等、問題は山積みである。
    - ・自動車関連はコロナ以前に戻ってきているが、半導体関連は半分程度に留まっている。
    - ・応募がなく、人材不足。
    - ・製造業は、自動車関連を除き全体的に受注が落ちている。新規取引先の開拓が急務である。
    - ・今後の業況について見通しが立たない状況である。
    - ・物価高騰が全てに影響を及ぼしている。
    - ・リーマンショック、震災、コロナ禍の経済危機と比較しても、現在の状況は悪い。
    - ・賃上げ原資確保の為、顧客に対し価格転嫁の交渉をしている。
    - ・以前と比較すると労務費、運送費等の値上げ申請が通るようになってきた。
    - ・人材の確保に苦戦している。新規採用よりも既存従業員に対して補助を入れるべきではと考える。
- という意見が寄せられた。